

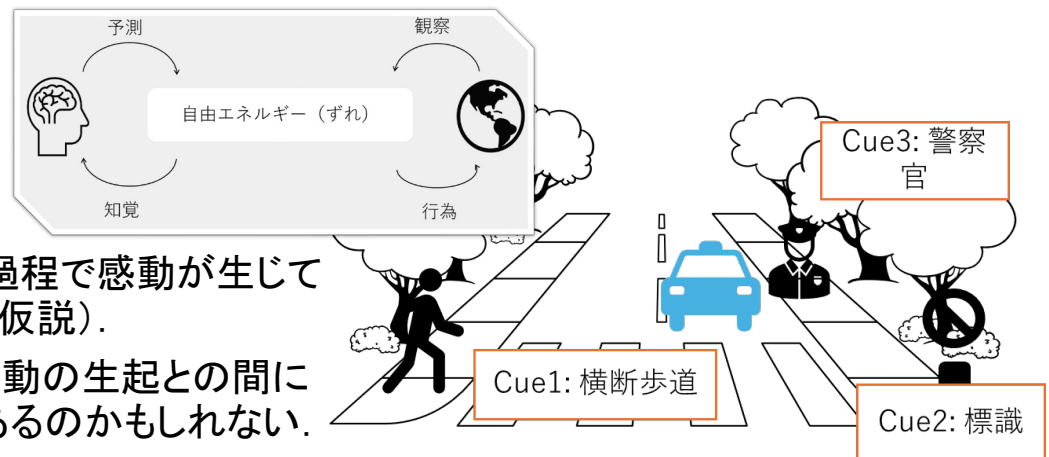
能動的推論に基づく感動のメカニズムと文化差の解明

情報学部 情報科学科（教授）竹内勇剛 （M1）鈴木遥花

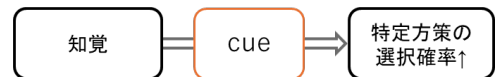
Keyword: 自由エネルギー原理 予測誤差 規範 感情

研究概要

- 人は予測と観察の「ずれ」(予測誤差)が小さくなるように知覚や行為を変化させる。
- 予測誤差の調整の過程で感動が生じている, と考えてみる(仮説).
- 社会規範の強さと感動の生起との間に何らかの因果性があるのかもしれない。

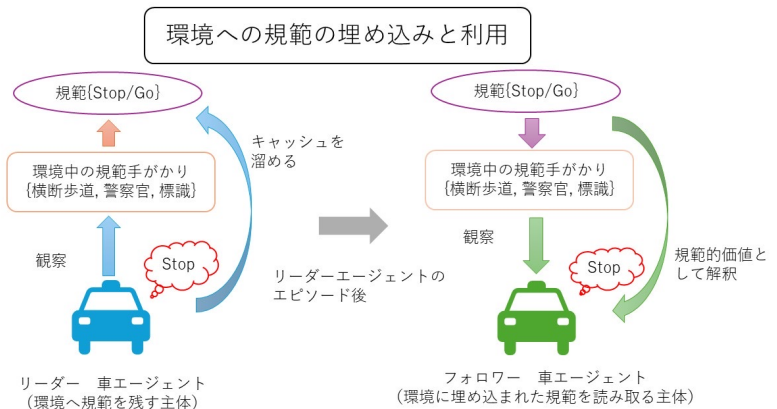


自由エネルギー原理から感動をモデル化



アピールポイント

- 強化学習を通じたシミュレーションによって, 人間の“心のはたらき”(認知過程)を明らかにする。
- 驚きや理解の範囲を超えた感動だけでなく, 淡々としたパターン化した単調な動作や日常的な行動への感動もモデル化できる可能性。
- 個人に閉じた認知過程が, 社会に開かれた価値の共有へと変化する過程にも接近。



応用先

- 個人としてバイクに乗ることの楽しさと, バイクが走る社会との調和的共立(共存)をデザイン。
- 規範による“押さえつけ”から個人の感動とその受容への拡大させる。
- 意図的に誤差を大きくしたり変化量を分析することが感動を誘発させる可能性。

技術を開花させるための肥料と土壌を作る

感動と社会的受容への拡張イメージ

